

2006 ナショナルチーム（以下NTと表示）ヨーロッパ遠征

4/2 日本を出発したNTは4/3 ロッテルダムでレーザートレーラー（レーザー6艇）、コーチボートをコンテナヤードから受け取り、バルセロナまで1500キロをひたすら走り、フェリーも利用して最初の大会開催地であるパルマに5日到着しました。

ここパルマで開催されるプリンセスソフィアトロフィーはヨーロッパ勢も数多く参加し、また気候も気温20°前後で晴天が多く海外遠征のスタート地には最適です。

NT参加はレーザー4艇、ラジアル2艇、大会開催日の9日まで練習を行い、今年初の海外レースに挑戦です。



予選3日間は1日のみ310~330° 8m/s超の強風、残りは205~220° 3~5m/sと軽順風、それでも白熱したレースが随所で見られました。特に女子は過激にヒートアップするのか各マークで怒鳴り声が響きます。日本勢も果敢に挑みますが、ヨーロッパ勢の中でのスタート、スタート後の角度に対応することが難しい様子です。それでもレースを重ねるごとに改善し、徐々に良いスタートが切れるようになっていきます。

レーザーは飯島がいい走りをして、第1マークをシングルで回航し、そのまま順位をキープ出来るレースが増えています。今まで多くに抜かれていたダウンウィンドでも順位をキープ出来ています。



(決勝ゴールドF スタート)

決勝 205～220° 3～6 m/s

レーザーは飯島、永井がゴールドFに進出、その他はシルバーFです。各選手が予選で経験した課題に対し克服すべく準備しレースを行っていました。

今大会での共通課題は

- ①スタート前30秒～2分間のクローズホールド
- ②スタートダッシュ
- ③クローズホールドでの完璧なバランス、波の対処
- ④混戦の中でも乱れていない風を掴むコース取り
- ⑤ダウンウィンドでの帆走（最小限の振りで波に乗り続けるボディーアクション）

どれについても特別なテクニックではありません。ただ完璧に出来るか、否かがスピード・角度に影響し順位に影響するのです。各選手はこの課題を克服すべく、決勝を戦いました。

決勝に入りさらに厳しい状況下のもと各自が随所でいい走りをしようとトライし、その結果各艇のスタートはかなり良いものになってきて、その影響からコースにおいてもミスが減っていました。他艇の影響を多く受けるヨットレースでは、全ての項目で完成度が問われ、自分のミスを最小限に減らすことも順位を上げるポイントです。日本では経験出来ない対戦相手の中、ミスも多い大会でしたが、各自が多くの経験をして次に繋げる大会に

なりました。



(ラジアル決勝 シルバーFの石川、長谷川)

4 / 1 5には次の大会地であるイエールに到着します。4 / 2 2まで合宿を行い、今大会での課題について引続き練習し必ず克服していきます。



(まだまだ遠征は続きます。次はイエールです。)

プリンセスソフィア 成績

レーザー級 17ヶ国 104艇

飯島洋一 ~33位

永井久規 ~37位

イアン・ホール ~77位

沖西祥宏 ~100位

ラジアル 22ヶ国 76艇

石川あゆ美 ~59位

長谷川哲子 ~67位